

党都議団 東部3区で測定

日本共産党東京都議団(吉田信夫団長、8人)は4、16日にかけて都内東部地域の3区で専門家の協力を得て放射線量の測定を実施し、同一地点内でも測定箇所によって線量に違いがあり「ホットスポット」が多く存在していることがわかりました。

都議団は5月に都内全域の128カ所で独自測定をおこない、メディアで相次いで紹介されました。今回の調査は比較的高い線量が測定された足立葛飾、江戸川の3区を対象に実施。足立葛飾地区はほぼ1キログラム四方、江戸川区はほぼ2キログラム四方で区切り、地上5センチおよび5センチの地表面で159地点、延べ364カ所の空中放射線

▶ ホットスポットは側溝・草地面 ▶ 都は除染 速やかに



東京都に申し入れる日本共産党東京都議団=25日、東京都庁

量を測定しました。公園などの子どもたちの生活の場での放射線量とどのような場所に放射性物質が蓄積しているかを調査する目的です。地上1センチで測定した186カ所のうち、毎時0.15マイクロシーベルト以上は18カ所にのぼりました。毎時0.26マイクロシーベルトを超えたのは22カ所あり、

最も高い線量が測定されたのは葛飾区の水元公園中央広場入り口付近の0.41マイクロシーベルトでした。地上5センチの地表面で測定した178カ所では、ほとんどの箇所です。毎時0.15マイクロシーベルトを1回以上は90カ所、最も高かったのは葛飾区新宿の団地内街路にたまった砂面で1.87マイクロシーベルトでした。測定の結果、同一地点内でも場所によって数値が大きく異なることが明らかになりました。公園などの中央部では線量が低く、側溝や草地面、植え込みでは高くなる傾向があります。水元公園の中央広場では地上1センチで0.34マイクロシーベルト、地上5センチの地表面でも0.39マイクロシーベルトでした。

対策の抜本的拡充を石原慎太郎知事宛てに申し入れました。

U型側溝ふたなどの道路脇ではたまった砂の量が多い場所ほど高線量でした。木片チップが敷かれたところは、砂地や土よりも相対的に高い数値でした。雨水がたまりやすい滑り台の下やベンチの下なども比較的高い数値が測定されました。

日本共産党都議団は25日、測定結果をもとに、放射線量の高いホ

東京都議団の放射線測定結果から(単位:マイクロシーベルト/時)

葛飾区水元公園	高さ	線量
水元公園入り口	1 m	0.28
	5 cm	0.39
	1 m	0.37
建物軒下(雨どいなし)	5 cm	1.22
	1 m	0.34
中央広場	5 cm	0.39
	1 m	0.41
中央広場入り口付近	5 cm	1.58



日本共産党都議団が各区議団とともに取り組んだ放射線測定。7日、東京都江戸川区